

令和6年度 第2学期 始業式あいさつ（2024年9月2日）

- 皆さんおはようございます。
本日、皆さんの元気に登校している姿を見て、とてもうれしく感じました。
- はじめに、台風10号は西日本、東日本各地で甚大な被害をもたらしました。先ほど行った避難訓練を生かして、災害時には迅速に安全な場所へ移動し身の安全を確保する力を身に付けてください。私たち全員が①流言に留意した正確な情報の入手 ②家族の避難先の確認 ③備蓄品や防災用品の点検等を行うとともに、自助・共助の実践力を高めていきましょう。
- 夏季休業日中の生徒の皆さんの活躍を一部、紹介します。
夏季休業日中に10日間で40回の中学生対象の学校見学会を行い合計で1295組2590名が参加されました。生徒会の皆さんや協力してくれた生徒の皆さんを中心に、見学会ボランティアとして、暑い中、一生懸命、校内の案内と説明を行ってくれました。協力してくれた生徒の皆さん、どうもありがとうございました。見学会に出席された方から、「生徒さんによる校内案内ツアーで満遍なく教えていただき、終わったときに質問がないくらいでした。生徒の皆さんが笑顔で楽しそうにいらしたので、こちらもうれしくなりました。」「生徒の皆さんがキラキラしていて活気があるところが本当に良いと思います。学校見学を通じてムサキタの雰囲気の良いさをあらためて感じる事ができました。」など好意的な感想が多く寄せられました。
また、緑光祭（文化祭）の準備・リハーサルに取り組んでいた皆さん、部活動に取り組んでいた皆さんの姿は猛暑の中でも、若々しく輝いていました。夏季講習や自主学習に取り組んでいた皆さん、よい結果につながることを祈っています。
- 2学期が始まる本日、皆さんに伝えたいことがあります。
8月11日の朝日新聞朝刊に掲載された草薨剛さんのことばです。
「なにごとにおいても、失敗しないことには成功ってなし得ない。一番の失敗は、失敗することを恐れることだと思っています。僕は失敗も楽しみたい。」
皆さんに失敗することを勧めているわけではありません。直前に迫った緑光祭をはじめ、学業、進路実現、部活動、生徒会活動などに向けて皆さんは果敢にチャレンジされていることと思います。自分の中でのベストを尽くしていれば、たとえ結果がでなかったとしても、「それまでの努力には意味がないのか」ということ、そんなことは絶対にない。むしろ、その当人にとっては、「どう取り組んだか。」ということのほうが、「何を成し遂げたか。」よりも、大切なんじゃないか。（松本紀生「オーロラの向こうに」）と、私も思います。結果を出そうと焦ることはありません。地道に一步一步確実に進むことが大切なのではないのでしょうか。
私事で恐縮ですが、私は高校の数学教員を目指して大学に入学しました。大学、大学院での研究を進める中で国の教育行政に携わる夢をもち国家公務員試験を受験しましたが失敗しました。自分の将来に不安を感じ焦っていましたが、祖父の「焦るな」ということばに背中を押してもらい、教員になり現在の私があります。今は微力ながら国の教育行政の仕事にも携わることができています。たとえ失敗しても自分の道を拓くことができるということをお伝えしたいと思い、お話ししました。
- さあ、緑光祭から始まる2学期です。生徒の皆さん一人一人がムサキタでの学びを深めていく2学期にしてほしいと願っています。私の話はこれで終わります。